

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4222002号
(P4222002)

(45) 発行日 平成21年2月12日 (2009. 2. 12)

(24) 登録日 平成20年11月28日 (2008. 11. 28)

(51) Int. Cl.

B 6 O R 7/04 (2006. 01)

F I

B 6 O R 7/04

C

請求項の数 3 (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2002-329169 (P2002-329169)
 (22) 出願日 平成14年11月13日 (2002. 11. 13)
 (65) 公開番号 特開2004-161124 (P2004-161124A)
 (43) 公開日 平成16年6月10日 (2004. 6. 10)
 審査請求日 平成17年9月28日 (2005. 9. 28)

(73) 特許権者 000003997
 日産自動車株式会社
 神奈川県横浜市神奈川区宝町2番地
 (74) 代理人 100082670
 弁理士 西脇 民雄
 (72) 発明者 松浦 佳希
 神奈川県座間市ひばりが丘5丁目791番
 地1号 株式会社日産テクノ内
 (72) 発明者 渡辺 雅也
 神奈川県横浜市神奈川区宝町2番地 日産
 自動車株式会社内

審査官 三宅 達

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 乗物用カップホルダー

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

乗物に設けられたホルダー収納室と、前記ホルダー収納室に出し入れ可能に装着され且つ側方及び上方に開放する保持凹部が設けられたホルダー本体と、前記保持凹部に対して側方から接近・離反するように前記ホルダー本体に回動可能に保持されて前記保持凹部との間に上方に開放するカップ保持空間を形成する保持アームと、前記保持アームに上下方向に向けて突設された被ガイド部材と、前記ホルダー収納室に前記ホルダー本体の出し入れ方向に向けて形成されると共に前記被ガイド部材に係合させられたアームガイドを備えると共に、前記アームガイド及び被ガイド部材は前記ホルダー本体の前記ホルダー収納室に対する出し入れに伴い前記保持アームを前記保持凹部に対して離反・接近させる乗物用カップホルダーであって、

前記ホルダー本体には前記保持凹部及び外側方に開放するアーム取付溝が形成され、前記アーム取付溝を形成する下壁及び上壁には互いに上下に位置する取付孔が形成され、前記保持アームの前記アーム取付溝内に配設された基部の下端及び上端には可撓性の支持片がそれぞれ突設され、前記各支持片には前記下壁及び上壁の取付孔にそれぞれ嵌合され且つ前記保持アームを前記ホルダー本体に可動可能に保持する支持軸が形成されていると共に、

前記被ガイド部材は可撓性のある弾性部材から形成されていて、前記ホルダー本体を前記ホルダー収納室から引き出した状態で前記保持アームが前記保持凹部から離反する方向に前記保持アームに外力を作用させたときに、前記被ガイド部材が撓んで前記保持アーム

10

20

と前記保持凹部との間隔が広がって前記カップ保持空間が大きくなるように設定されていることを特徴とする乗物用カップホルダー。

【請求項 2】

前記保持アームは前記保持凹部から離反する方向に付勢手段で回動付勢されていることを特徴とする請求項 1 に記載の乗物用カップホルダー。

【請求項 3】

前記ホルダー収納室の内面には、前記被ガイド部材が前記アームガイドから外れたときに前記被ガイド部材に係止させる段差が設けられていることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の乗物用カップホルダー。

【発明の詳細な説明】

10

【0001】

【発明の属する技術分野】

この発明は、複数種類の異径のカップや飲み物容器を保持することができる乗物用カップホルダーに関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来の車載用のカップホルダーとしては、ハウジングを兼用するコンソールボックスに車室内に開口する収納空間を形成し、この収納空間にホルダー本体を出し入れ可能に配設し、ホルダー本体の左右の部分に側方に開放する円弧状の保持凹部を形成し、水平に回動して保持凹部に対し接近離反する保持アームをホルダー本体に設けて、この保持アームと保持凹部との間に形成された上方に開放するカップ保持空間に紙コップ、ジュースの缶、飲み物のビン等のカップ（容器）を保持させるようにしたものがある。

20

【0003】

この種のカップホルダーには、カップ保持空間に保持されるカップの径の大小に応じて、カップ保持空間のおおよその径を拡張又は縮径させるために、保持アームの基端部をホルダー本体に水平回動可能に保持させ、この保持アームの回動軸を中心に円弧状に設けられ且つ周方向に凹凸形状を呈する円弧状の切替壁を保持アームの基端部に近接させてホルダー本体に設けると共に、保持アームの基端部に切替壁に係合する弾性爪を設けたものが知られている（特許文献 1 参照）。

【0004】

30

このカップホルダーでは、弾性爪の切替壁への係合位置を変えることで、保持アームと保持凹部との距離を変化させて、カップ保持空間の径を保持させるカップの径の大小に応じて変化させるようにしている。

【0005】

【特許文献 1】

特開 2000 - 16140 号公報（段落番号 13，14，20，21 等参照）

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上述したカップホルダーでは、凹凸形状を有する切替壁に弾性爪に係合させたラッチ機構が複雑な形状を有していたため、コスト高になるという問題があった。

40

【0007】

そこで、この発明は、構成が簡単で部品点数が少なく、コストの低減を図ることができる乗物用カップホルダーを提供することを目的とするものである。

【0008】

【課題を解決するための手段】

この目的を達成するため、請求項 1 の発明は、乗物に設けられたホルダー収納室と、前記ホルダー収納室に出し入れ可能に装着され且つ側方及び上方に開放する保持凹部が設けられたホルダー本体と、前記保持凹部に対して側方から接近・離反するように前記ホルダー本体に回動可能に保持されて前記保持凹部との間に上方に開放するカップ保持空間を形成する保持アームと、前記保持アームに上下方向に向けて突設された被ガイド部材と、前

50

記ホルダー収納室に前記ホルダー本体の出し入れ方向に向けて形成されると共に前記被ガイド部材が係合させられたアームガイドを備えと共に、前記アームガイド及び被ガイド部材は前記ホルダー本体の前記ホルダー収納室に対する出し入れに伴い前記保持アームを前記保持凹部に対して離反・接近させる乗物用カップホルダーであって、前記ホルダー本体には前記保持凹部及び外側方に開放するアーム取付溝が形成され、前記アーム取付溝を形成する下壁及び上壁には互いに上下に位置する取付孔が形成され、前記保持アームの前記アーム取付溝内に配設された基部の下端及び上端には可撓性の支持片がそれぞれ突設され、前記各支持片には前記下壁及び上壁の取付孔にそれぞれ嵌合され且つ前記保持アームを前記ホルダー本体に可動可能に保持する支持軸が形成されていると共に、前記被ガイド部材は可撓性のある弾性部材から形成されていて、前記ホルダー本体を前記ホルダー収納室から引き出した状態で前記保持アームが前記保持凹部から離反する方向に前記保持アームに外力を作用させたときに、前記被ガイド部材が撓んで前記保持アームと前記保持凹部との間隔が広がって前記カップ保持空間が大きくなるように設定されている乗物用カップホルダーとしたことを特徴とする。

10

【0009】

この構成によれば、構成が簡単で少ない部品点数で径の異なるカップ又は容器を容易に保持させることができ、カップ等の保持のためのカップホルダーのコストの低減を図ることができる。

【0010】

また、請求項2の発明は、前記保持アームは前記保持凹部から離反する方向に付勢手段で回動付勢されていることを特徴とする。この構成によれば、ホルダー本体を引き出すことにより、保持アームを付勢手段の付勢力により保持凹部から離反させて、カップ保持空間を自動的に形成できる。

20

【0011】

更に、請求項3の発明は、前記ホルダー収納室の内面には、前記被ガイド部材が前記アームガイドから外れたときに前記被ガイド部材に係止させる段差が設けられていることを特徴とする。

【0012】

この構成によれば、ホルダー本体をホルダー収納室から引き出した状態で保持アームを保持凹部から離反する方向に外力を作用させることにより、被ガイド部材を撓ませて保持アームと保持凹部との間隔を広げたときに、前記被ガイド部材が前記アームガイドから外れたとしても、前記被ガイド部材が段差に係止されて、前記保持アームが保持凹部から離反する方向に回動するのを阻止することになる。

30

【0013】

【発明の実施の形態】

以下、この発明の実施の形態を図面に基づいて説明する。

【0014】

図1において、1は車両である自動車（乗物）の車室、2は車室1内のフロアコンソールの前端部に設けられた起立部、3は起立部2に設けられた開口、4は開口3に取り付けられたホルダーケースである。このホルダーケース4は、フロアコンソールの起立部2に一体に形成されていても良い。

40

【0015】

このホルダーケース4内には、車室1に開口すると共に、車両の前後方向に延びるホルダー収納室5が形成されている。このホルダー収納室5には、ホルダー本体6が前後に出し入れ可能に挿入されている。

【0016】

このホルダー本体6は、図2に示したように車室内側の端部にリッド7を有する。また、ホルダー本体6の左右の部分には、リッド7に隣接する保持凹部8、8が設けられている。この各保持凹部8、8は、平面視形状が略半円弧状に形成されていると共に、左右の外側方に向けてそれぞれ開放させられている。しかも、各保持凹部8、8は、上端が上方に

50

向けて開放させられている。

【 0 0 1 7 】

この各保持凹部 8 の下端には、保持凹部 8 の曲率中心を含み且つリッド 7 との間に空間 9 a を形成可能な支持壁（底壁） 9 が形成されている。尚、支持壁 9 は、図 2 に示したように保持凹部 8 の曲率中心を中心とする円の略 1 / 4 以上の面積を有する。しかも、リッド 7 の保持凹部 8 側の面には、保持凹部 8 に連なる面 1 0 a を有する突部 1 0 が形成されている。

【 0 0 1 8 】

更に、ホルダー本体 6 の中間部の両側部には、前後に延び且つ保持凹部 8 , 8 及び外側方に開放するアーム取付溝（アーム取付凹部） 1 1 , 1 1 がそれぞれ形成されている。これにより、アーム取付溝 1 1 の保持凹部 8 とは反対側の端部、即ちアーム取付溝 1 1 の前端には端壁 1 2 が形成されている。

【 0 0 1 9 】

このアーム取付溝 1 1 は、ホルダーケース 4 の側部の下壁 1 3 と上壁 1 4 との間に形成されている。そして、下壁 1 3 の端壁 1 2 近傍の部分には、側方に向けて延びると共に、側縁に開放するガイド凹部 1 5 が形成されている。しかも、下壁 1 3 にはガイド凹部 1 5 の開放端とは反対側の端部に位置させて取付孔 1 3 a が形成され、上壁 1 4 には取付孔 1 3 a の上方に位置させて取付孔 1 4 a が形成されている（図 4 参照）。この上壁 1 4 には保持凹部 8 側に位置させて取付孔 1 4 a の中心を中心とする円弧状のガイドスリット（ガイド孔） 1 6 が形成されている。

【 0 0 2 0 】

また、1 7 はカップ保持用の保持アームである。この保持アーム 1 7 は、図 1 , 図 4 から明らかなようにアーム取付溝 1 1 内に配設された基部 1 7 a と、基部 1 7 a に連設され且つ保持凹部 8 に対向させられたカップ保持部 1 7 b を有する。このカップ保持部 1 7 b は、保持凹部 8 とは反対側に円弧状に膨出して、保持凹部 8 との間に略円形のカップ保持空間（カップ配設空間） 1 8 を形成するようになっている。

【 0 0 2 1 】

また、基部 1 7 a の端壁 1 2 側の端部の下端及び上端には、薄肉で可撓性の支持片 1 9 , 2 0 が突設されている。この支持片 1 9 には下方に向けて突出する可撓性の支持軸 2 1 が形成され、支持片 2 0 には上方に向けて突出する支持軸 2 2 が形成されている。

【 0 0 2 2 】

この支持軸 2 1 , 2 2 は取付孔 1 3 a , 1 4 a に回転自在に嵌合されている。これにより、保持アーム 1 7 のカップ保持部 1 7 b は、保持凹部 8 に対して側方から接近・離反するようにホルダー本体 6 に回動可能に保持されている。尚、支持軸 2 1 , 2 2 の取付孔 1 3 a , 1 4 a への取り付けに際しては、支持軸 2 2 を取付孔 1 4 a に斜めから挿入した後、支持片 1 9 を撓めながら支持軸 2 1 をガイド凹部 1 5 に沿って取付孔 1 3 a 側に移動させて、支持軸 2 1 を取付孔 1 3 a に嵌合させると良い。

【 0 0 2 3 】

また、基部 1 7 a の上面には、被ガイド部材としての被ガイド軸 2 3 が支持片 1 9 に近接して一体に設けられている。この被ガイド軸 2 3 は、ガイドスリット 1 6 に挿通されて、上端部が上壁 1 4 の上方に突出させられている。

【 0 0 2 4 】

この被ガイド軸 2 3 は、保持アーム 1 7 と同じ材料で基部 1 7 a に一体に形成しても良い。この場合には、保持アーム 1 7 及び被ガイド軸 2 3 の材料としては、例えばポリプロピレン等の可撓性のある材料を用いることができる。この場合、被ガイド軸 2 3 は、ある程度の強度を有すると共に、後述するカップ保持力より多少大きい外力で撓むことができるように直径や長さが設定されている。

【 0 0 2 5 】

また、被ガイド軸 2 3 は、保持アーム 1 7 とは異なる材料から形成して、基部 1 7 a に取り付けるようにしても良い。この場合にも、被ガイド軸 2 3 は、ある程度の強度を有する

10

20

30

40

50

と共に、後述するカップ保持力より多少大きい外力で撓むことができるように直径や長さが設定されている。しかも、この場合には、保持アーム 17 には比較的硬質で撓みにくい材料を用いることで、カップ保持部 17b によるカップ保持状態を安定させることができる。

【0026】

更に、保持アーム 17 の基部 17a と端壁 12a との間には、支持軸 22 に捲回したネジリコイルバネ 24 が介装されている。尚、ネジリコイルバネ 24 の基部 17a の支持部は図示を省略したが、基部 17a に上面に開口する係止穴（図示せず）を形成して、この係止穴に係合する折曲端部をネジリコイルバネ 24 の一端部に設けると良い。このネジリコイルバネ 24 は、カップ保持部 17b が保持凹部 8 から離反する方向に保持アーム 17 を

10

【0027】

また、ホルダーケース 4 は上壁 4a を有する。この上壁 4a の下面の側部には、その側縁に沿って延びる（実施例では前後に延びる）カム面（ガイド面）25 が保持アーム 17 のガイドとして形成されている。このカム面 25 は、ホルダー収納室 5 の開口端側に位置する第 1 の支持面 25a と、この第 1 の支持面 25a の前端から前側に向けて延設され且つホルダーケース 4 の左右方向の内側に傾斜するガイド面（傾斜ガイド面）25b と、ガイド面 25b の前端から前側に向けて延設された第 2 の支持面 25c を有する。

【0028】

この第 1、第 2 の支持面 25a、25c は互いに平行に設けられている。しかも、カム面 25 には、被ガイド軸 23 の上端部がネジリコイルバネ 24 のバネ力により係合させられている。

20

【0029】

そして、ホルダー本体 6 がホルダー収納室 5 から図 1、図 3、図 5 の如く引き出されて、被ガイド軸 23 が第 1 の支持面 25a に係合している状態では、保持アーム 17 のカップ保持部 17b と保持凹部 8 との間に形成されるカップ保持空間 18 が略円形に形成される様になっている。

【0030】

また、ホルダー本体 6 がホルダー収納室 5 内に図 6 の如く移動させられて、被ガイド軸 23 が第 2 の支持面 25c に係合している状態では、保持アーム 17 のカップ保持部 17b が保持凹部 8 側に接近して、カップ保持部 17b がホルダーケース 4 の内側面に当たらないようになっている。

30

【0031】

更に、上壁 4a の下面の側部には、カム面 25 より一段低く且つカム面 25 より外側に位置する段差面（段差）26 が形成されている。この段差面 26 は、被ガイド部材である被ガイド軸 23 の上端部がアームガイドであるカム面 25 から外れたとき、被ガイド軸 23 の上端部を係止して、保持アーム 17 が保持凹部から離反する方向に回動するのを阻止する様になっている。

【0032】

次に、このような構成の乗物用カップホルダーの作用を説明する。

40

【0033】

このような構成において乗物用カップホルダーを使用する場合は、ホルダー本体 6 がホルダー収納室 5 内に収納された状態から、図 1、図 3、図 5 の如く保持凹部 8 及びカップ保持部 17b がホルダーケース 4 から車室 1 内に露出する状態まで、ホルダー本体 6 をホルダー収納室 5 から引き出す。この引き出しに際して、被ガイド軸 23 の上端部が第 2 の支持面 25c から傾斜するガイド面 25b に沿って外側の第 1 の支持面 25a 側に移動させられ、保持アーム 17 がネジリコイルバネ 24 のバネ力で保持凹部 8 から離反する方向に支持軸 21、22 を中心に回動させられる。

【0034】

そして、図 1、図 3、図 5 の如く保持凹部 8 及びカップ保持部 17b がホルダーケース 4

50

から車室 1 内に露出した位置では、被ガイド軸 2 3 が第 1 の支持面 2 5 a に係合していて、保持アーム 1 7 のカップ保持部 1 7 b と保持凹部 8 との間に形成されるカップ保持空間 1 8 が略円形に形成される様になっている。

【 0 0 3 5 】

従って、この状態で通常は缶ジュースや紙コップ等の比較的に小径のカップ（容器）2 7 を図 7（a）の如くカップ保持空間 1 8 内に挿入して、保持凹部 8 とカップ保持部 1 7 b との間で保持することができる。また、この位置において被ガイド軸 2 3 は、撓むことなく上下方向に延びていて、上端部が第 1 の支持面 2 5 a に係合している。

【 0 0 3 6 】

また、カップ 2 7 よりも径の大きい缶類やビン、カップ等の容器 2 8 を保持させる場合には、容器 2 8 の下端部側でカップ保持部 1 7 b が保持凹部 8 から離反する方向にカップ保持部 1 7 b に外力を加えて、被ガイド軸 2 3 を図 8（b）の如く撓ませることにより、カップ保持部 1 7 b を保持凹部 8 から離反する方向に僅かに回転させることができる。

10

【 0 0 3 7 】

これにより、保持凹部 8 及びカップ保持部 1 7 b がホルダーケース 4 から車室 1 内に露出する状態まで、ホルダー本体 6 をホルダー収納室 5 から引き出した状態で、カップ保持空間 1 8 を図 7（a）より広げて、カップ 2 7 よりも径の大きい容器 2 8 を保持凹部 8 とカップ保持部 1 7 b との間で保持させることができる。

【 0 0 3 8 】

尚、カップ保持部 1 7 b を保持凹部 8 から離反する方向に広げる際、被ガイド軸 2 3 の上端部が第 1 の支持面 2 5 a から外れたとしても、被ガイド軸 2 3 の上端部が段差面 2 6 に当接して、側方に外れるのが防止される。

20

【 0 0 3 9 】

一方、乗物用カップホルダーを使用しない場合には、図 1，図 3，図 5 の状態からホルダー本体 6 をホルダー収納室 5 内に移動させて収納させる。この収納に際して、被ガイド軸 2 3 の上端部が第 1 の支持面 2 5 a から傾斜するガイド面 2 5 b に沿って内側の第 2 の支持面 2 5 b 側に移動させられ、保持アーム 1 7 がネジリコイルバネ 2 4 のバネ力に抗して保持凹部 8 に接近する方向に支持軸 2 1，2 2 を中心に回転させられる。

【 0 0 4 0 】

この被ガイド軸 2 3 の上端部が傾斜するガイド面 2 5 b に沿って内側の第 2 の支持面 2 5 b 側に移動させられる際、保持アーム 1 7 のカップ保持部 1 7 b が保持凹部 8 側に接近して、カップ保持部 1 7 b がホルダーケース 4 の内側面に当たらないようになっている。

30

【 0 0 4 1 】

図 6 は、ホルダー本体 6 がホルダー収納室 5 内に収納される途中の状態であって、被ガイド軸 2 3 の上端部が第 2 の支持面 2 5 c に係合している状態を示し、この状態からリッド 7 がホルダー収納室 5 の開口端に係合するまで、ホルダー本体 6 をホルダー収納室 5 内に移動させることで、ホルダー本体 6 がホルダー収納室 5 内に収納させられる。

【 0 0 4 2 】

以上説明した発明の実施の形態の乗物用カップホルダーは、乗物（車両）に設けられたホルダー収納室 5 と、前記ホルダー収納室 5 に出し入れ可能に装着され且つ側方及び上方に開放する保持凹部 8 が設けられたホルダー本体 6 と、前記保持凹部 8 に対して側方から接近・離反するように前記ホルダー本体 6 に回転可能に保持されて前記保持凹部 8 との間に上方に開放するカップ保持空間 1 8 を形成する保持アーム 1 7 を有する。また、乗物用カップホルダーは、前記保持アーム 1 7 に上下方向に向けて突設された被ガイド部材（被ガイド軸 2 3）と、前記ホルダー収納室 5 に前記ホルダー本体 6 の出し入れ方向に向けて形成されると共に前記被ガイド部材に係合させられたアームガイド（カム面 2 5）を備えている。しかも、前記アームガイド（カム面 2 5）及び被ガイド部材（被ガイド軸 2 3）は前記ホルダー本体 6 の前記ホルダー収納室 5 に対する出し入れに伴い前記保持アーム 1 7 を前記保持凹部 8 に対して離反・接近させる様になっている。更に、前記被ガイド部材（被ガイド軸 2 3）は可撓性のある弾性部材から形成されていて、前記ホルダー本体 6 を前

40

50

記ホルダー収納室 5 から引き出した状態で前記保持アーム 17 が前記保持凹部 8 から離反する方向に前記保持アーム 17 に外力を作用させたときに、前記被ガイド部材（被ガイド軸 23）が撓んで前記保持アーム 17 と前記保持凹部 8 との間隔が広がって前記カップ保持空間 18 が大きくなるように設定されている。

【0043】

この構成によれば、構成が簡単で少ない部品点数で径の異なるカップ又は容器を容易に保持させることができ、カップ等の保持のためのカップホルダーのコストの低減を図ることができる。

【0044】

また、この発明の実施の形態の乗物用カップホルダーでは、前記保持アーム 17 が前記保持凹部 8 から離反する方向に付勢手段（ネジリコイルバネ 24）で回動付勢されている。この構成によれば、ホルダー本体 6 を引き出すことにより、保持アーム 17 を付勢手段（ネジリコイルバネ 24）の付勢力により保持アーム 17 が保持凹部 8 から離反させて、カップ保持空間 18 を形成できる。

【0045】

更に、この発明の実施の形態の乗物用カップホルダーは、前記ホルダー収納室 5 の内面に、前記被ガイド部材（被ガイド軸 23）が前記アームガイド（カム面 25）から外れたときに前記被ガイド部材（被ガイド軸 23）に係止させる段差（段差面 26）が設けられている構成としている。

【0046】

この構成によれば、ホルダー本体 6 をホルダー収納室 5 から引き出した状態で保持アーム 17 を保持凹部 8 から離反する方向に外力を作用させることにより、被ガイド部材（被ガイド軸 23）を撓ませて保持アーム 17 と保持凹部 8 との間隔を広げたときに、前記被ガイド部材（被ガイド軸 23）が前記アームガイド（カム面 25）から外れたとしても、前記被ガイド部材（被ガイド軸 23）が段差（段差面 26）に係止されて、前記保持アーム 17 が保持凹部 8 から離反する方向に回動するのを阻止することになる。

【0047】

【発明の効果】

請求項 1 の発明は、以上説明したように構成したので、構成が簡単で少ない部品点数で径の異なるカップ又は容器を容易に保持させることができ、カップ等の保持のためのカップホルダーのコストの低減を図ることができる。

【0048】

また、請求項 2 の発明によれば、ホルダー本体を引き出すことにより、保持アームを付勢手段の付勢力により保持凹部から離反させて、カップ保持空間を自動的に形成できる。

【0049】

さらに、請求項 3 の発明は、ホルダー本体をホルダー収納室から引き出した状態で保持アームを保持凹部から離反する方向に外力を作用させることにより、被ガイド部材を撓ませて保持アームと保持凹部との間隔を広げたときに、前記被ガイド部材が前記アームガイドから外れたとしても、前記被ガイド部材が段差に係止されて、前記保持アームが保持凹部から離反する方向に回動するのを阻止することになる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】この発明に係る乗物用カップホルダーの部分斜視図である。

【図 2】図 1 に示した乗物用カップホルダーの分解斜視図である。

【図 3】図 1 の乗物用カップホルダーの部分平面図である。

【図 4】図 3 の B - B 線に沿う断面図である。

【図 5】図 3 の本体ケースを想像線で示すと共にホルダー本体の一部を破断して示した説明図である。

【図 6】図 5 のホルダー本体をホルダー収納室内に収納する途中の状態の作用説明図である。

【図 7】（a）は乗物用カップホルダーの作用説明図、（b）は（a）の A1 - A1 線に

10

20

30

40

50

沿う概略断面図である。

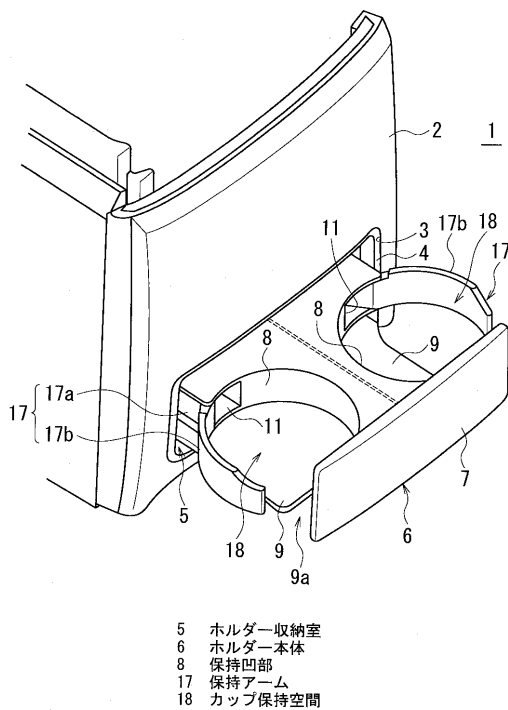
【図 8】(a) は乗物用カップホルダーの作用説明図、(b) は(a) の A 2 - A 2 線に沿う概略断面図である。

【符号の説明】

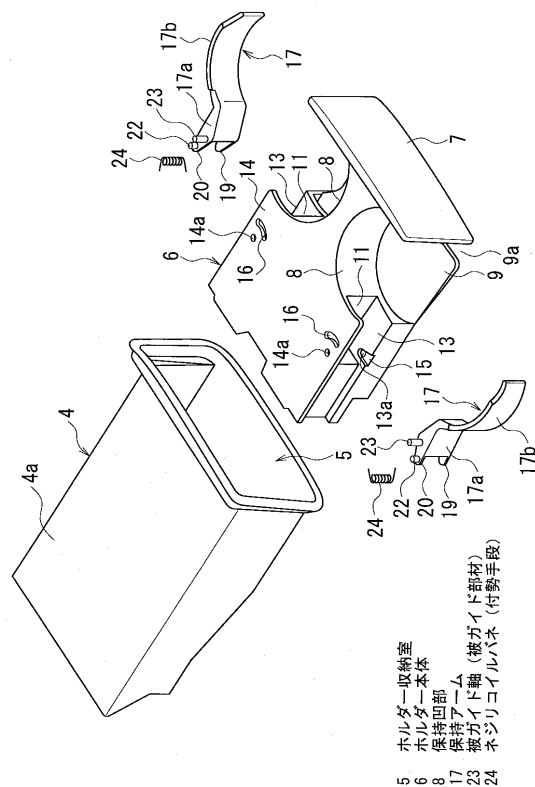
- 5・・・ホルダー収納室
- 6・・・ホルダー本体
- 8・・・保持凹部
- 17・・・保持アーム
- 18・・・カップ保持空間
- 23・・・被ガイド軸（被ガイド部材）
- 24・・・付勢手段（ネジリコイルバネ）
- 25・・・カム面（アームガイド）
- 26・・・段差面（段差）

10

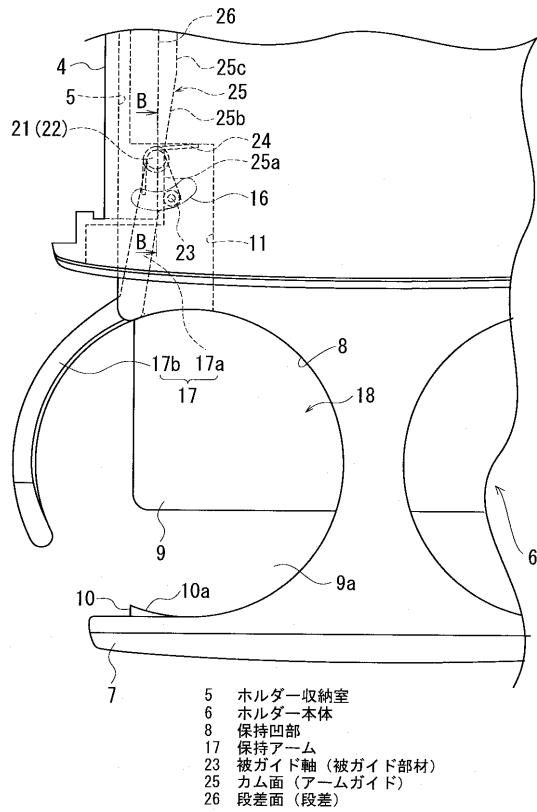
【図 1】



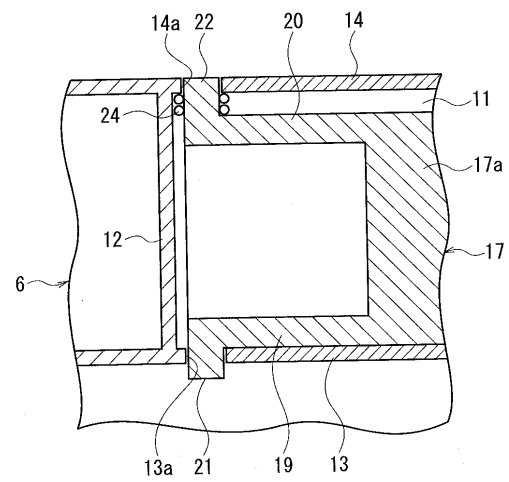
【図 2】



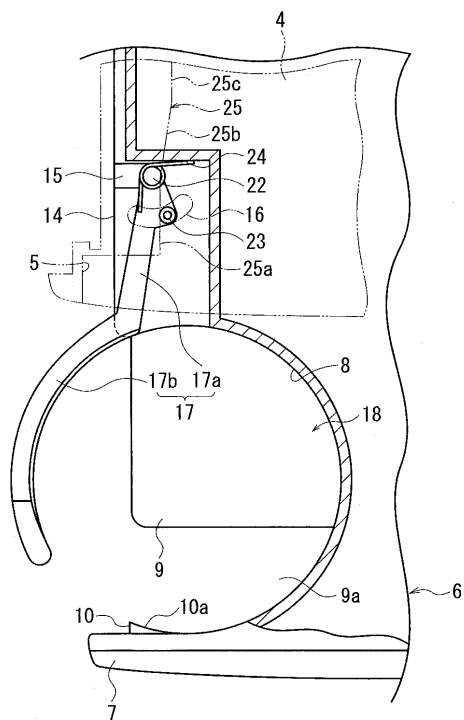
【図 3】



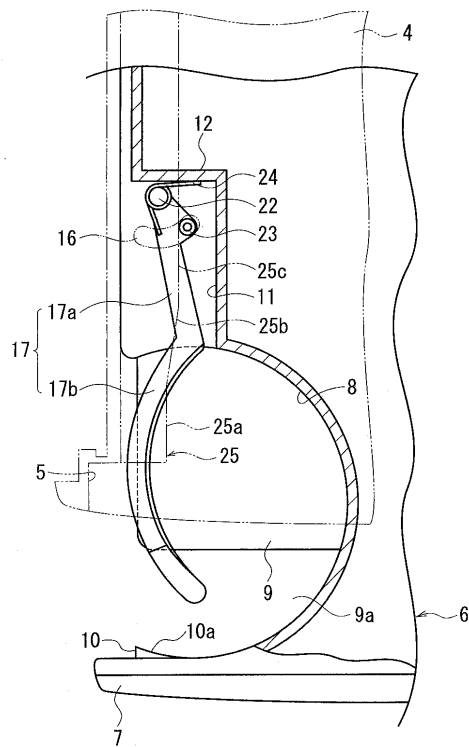
【図 4】



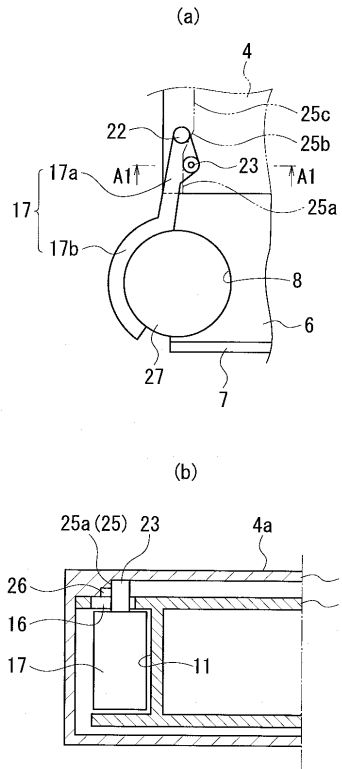
【図 5】



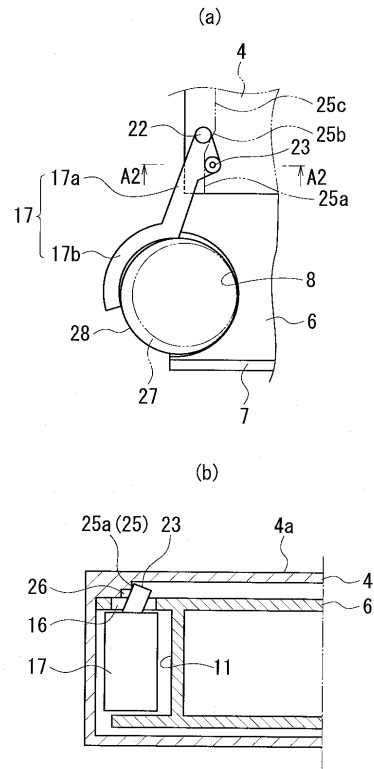
【図 6】



【図 7】



【図 8】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開平 1 1 - 1 1 5 6 0 6 (J P , A)
特開平 0 6 - 0 0 1 1 7 9 (J P , A)
特開 2 0 0 0 - 1 6 1 4 0 (J P , A)

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)

B60R 7/04

B60N 3/10